



2024年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年1月12日

上場会社名 株式会社マックハウス 上場取引所 東
コード番号 7603 URL <https://www.mac-house.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役会長兼社長（氏名） 舟橋 浩司
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理部長（氏名） 坂下 和志 (TEL) 03-3316-1911
四半期報告書提出予定日 2024年1月12日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の業績（2023年3月1日～2023年11月30日）

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	11,698	△13.8	△550	—	△516	—	△694	—
2023年2月期第3四半期	13,577	0.5	△447	—	△364	—	△653	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円	銭	円	銭				
2024年2月期第3四半期	—	△44.89	—	—				
2023年2月期第3四半期	—	△42.31	—	—				

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第3四半期	9,260	3,164	34.2
2023年2月期	10,755	3,858	35.9

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 3,164百万円 2023年2月期 3,858百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2023年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00	0.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の業績予想（2023年3月1日～2024年2月29日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	18,000	△2.4	△550	—	△500	—	△750	—	—	△48.51

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2024年2月期3Q	15,597,638株	2023年2月期	15,597,638株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2024年2月期3Q	136,207株	2023年2月期	136,207株
------------	----------	----------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年2月期3Q	15,461,431株	2023年2月期3Q	15,456,780株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因によって、異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(セグメント情報等)	7
3. その他	8
(継続企業の前提に関する重要事象等)	8
(商品別売上高の状況)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2023年3月1日~2023年11月30日)における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことにより、社会経済活動の正常化が進む一方、地政学的リスクの高まりやエネルギー価格、原材料価格の高騰、円安の進行による物価上昇など、経済的リスクは高く、先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するカジュアルウェア業界におきましては、帰省や旅行、また日常の外出機会が増加する中、コロナ禍を経て変化した価値観とニーズへの対応が求められております。

かかる状況におきまして、当社は「暮らしに役立つ商品と企業活動を通じて地域社会に貢献します。」という企業理念のもと、お客様の生活に密着したライフスタイル提案を行ってまいりました。

商品政策につきましては、残暑により秋物の立ち上がりが遅れる中、年間定番商品であるボトムス販売に注力し売上確保に努めると同時に、仕入コントロールを行いながら持ち越し商品の早期現金化を進め、適正在庫への見直しを図りました。在庫管理を徹底することにより、過剰な売価変更を抑制し粗利率の改善に努めましたが、秋冬商品の販売が伸びず、当第3四半期累計期間における粗利率に関しては、前年同期比0.2ポイント増に止まりました。

営業利益の確保が最優先とされる現況において、収益構造の変革を進めており、不採算店舗の閉鎖、業務改革による徹底したコストの圧縮を図るなど販管費の最適化に取り組む一方、パートタイマーの社内資格制度の見直しやSNSを活用したスタッフの着こなし提案など、人財活性化策によるリアル店舗の強化を推進しました。

これらの結果、既存店売上高は、前年同期比6.1%減、既存店客数は、前年同期比8.7%減、既存店客単価は、前年同期比2.8%増となりました。

また、当第3四半期累計期間末の店舗数は、6店舗の出店、38店舗の閉鎖により、288店舗(前年同期比48店舗減)となりました。

利益面につきましては、店舗数減、客数減による売上高減少により、売上総利益は前年同期比13.5%減となりました。

経費面におきましては、一般管理費の抑制、及び退店による固定費の削減により、販売費及び一般管理費は前年同期比11.2%減となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は11,698百万円(前年同期比13.8%減)となりました。また、営業損失は550百万円(前年同期は営業損失447百万円)、経常損失は516百万円(前年同期は経常損失364百万円)、四半期純損失は694百万円(前年同期は四半期純損失653百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ1,495百万円減少し、9,260百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末に比べ1,222百万円減少し、6,446百万円となりました。これは主に商品が266百万円、売掛金が426百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が1,865百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ272百万円減少し、2,813百万円となりました。これは主に、敷金及び保証金が202百万円減少したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末に比べ801百万円減少し、6,095百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べ695百万円減少し、3,741百万円となりました。これは主に、電子記録債務が721百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ106百万円減少し、2,353百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末に比べ693百万円減少し、3,164百万円となりました。

これは主に、四半期純損失を694百万円を計上したこと等によるものであります。

総資産に占める自己資本比率は34.2%となり前事業年度末に比べ1.7ポイント減となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年4月14日付、「2023年2月期決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,709	844
売掛金	364	790
商品	4,348	4,615
前払費用	163	144
その他	82	51
流動資産合計	7,668	6,446
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	54	50
建物附属設備（純額）	367	324
構築物（純額）	5	4
工具、器具及び備品（純額）	76	60
リース資産（純額）	6	4
土地	173	173
その他	1	-
有形固定資産合計	686	618
無形固定資産	106	129
投資その他の資産		
長期前払費用	39	32
敷金及び保証金	2,250	2,047
その他	6	1
貸倒引当金	△2	△14
投資その他の資産合計	2,294	2,066
固定資産合計	3,086	2,813
資産合計	10,755	9,260

(単位:百万円)

	前事業年度 (2023年2月28日)	当第3四半期会計期間 (2023年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,061	1,129
電子記録債務	2,533	1,812
ファクタリング債務	16	21
未払金	35	47
未払法人税等	137	95
未払費用	449	497
賞与引当金	51	6
店舗閉鎖損失引当金	4	5
資産除去債務	41	24
その他	104	101
流動負債合計	4,436	3,741
固定負債		
退職給付引当金	1,656	1,614
転貸損失引当金	29	17
長期預り保証金	134	121
資産除去債務	590	561
繰延税金負債	28	25
その他	20	12
固定負債合計	2,460	2,353
負債合計	6,896	6,095
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	4,898	4,898
利益剰余金	△1,059	△1,753
自己株式	△80	△80
株主資本合計	3,858	3,164
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△0	0
評価・換算差額等合計	△0	0
純資産合計	3,858	3,164
負債純資産合計	10,755	9,260

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自2022年3月1日 至2022年11月30日)	当第3四半期累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)
売上高	13,577	11,698
売上原価	6,879	5,901
売上総利益	6,698	5,796
販売費及び一般管理費	7,145	6,346
営業損失(△)	△447	△550
営業外収益		
受取利息	0	0
受取家賃	207	183
その他	59	31
営業外収益合計	267	214
営業外費用		
支払利息	0	1
不動産賃貸費用	181	157
その他	2	21
営業外費用合計	184	181
経常損失(△)	△364	△516
特別損失		
固定資産除却損	0	5
店舗閉鎖損失	-	3
減損損失	164	60
店舗閉鎖損失引当金繰入額	20	5
リース解約損	-	10
特別損失合計	185	85
税引前四半期純損失(△)	△549	△601
法人税、住民税及び事業税	103	95
法人税等調整額	0	△3
法人税等合計	104	92
四半期純損失(△)	△653	△694

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当第3四半期累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

当社は衣料品等小売業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

3. その他

(継続企業の前提に関する重要事象等)

当社は、前事業年度まで5期連続して営業損失を計上し、当第3四半期においても営業損失を計上しているため、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせる事象又は状況が存在しております。当該状況の解消のために、下記の改善施策の実行により収益性を高め、財務体質の改善を図っております。

(1) 仕入抑制と滞留在庫の現金化

仕入コントロールを徹底し、適正在庫を維持することで過剰なキャッシュアウトを防ぐと同時に、滞留在庫の現金化を目的に消化促進を図り、前第3四半期累計期間に対し滞留在庫の消化率は改善しております。

(2) 粗利率の向上

プライベートブランドを中心とした機能性商品の開発を推進し、一部商品は販売価格の値上げを行いました。その結果、今期粗利率に関しては、前年に対し改善となる見込みです。

(3) 収益構造の改革

不採算店舗の閉鎖等を含めた徹底したコスト圧縮を進めております。

上記施策を中心に抜本的な財務体質改善を図り、事業再建の進捗について緊密に親会社に報告し、資金調達面を含め協議を進めております。

現時点では、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

(商品別売上高の状況)

商品別	期別	前第3四半期累計期間	当第3四半期累計期間	前年同四半期比	増減
		自 2022年3月1日 至 2022年11月30日	自 2023年3月1日 至 2023年11月30日		
メンズトップス		4,334百万円	3,716百万円	85.8%	△617百万円
メンズボトムス		2,588百万円	2,332百万円	90.1%	△255百万円
レディーストップス		2,433百万円	2,061百万円	84.7%	△372百万円
レディースボトムス		1,378百万円	1,179百万円	85.6%	△198百万円
キッズ		1,510百万円	1,188百万円	78.6%	△322百万円
その他		1,332百万円	1,220百万円	91.6%	△111百万円
合計		13,577百万円	11,698百万円	86.2%	△1,879百万円

(注) 「その他」はインナー・レグ、雑貨、コスメ、食品等であります。